

五十嵐力元五書

金子君の日記

教 學 局

一、是と字根<sup>せ</sup>と法を用い、うやーニと明法ニ由リ、  
 の一を<sup>ろ</sup>つ子、その外、安と見て、の意、  
 と解<sup>ろ</sup>つ子、の<sup>ろ</sup>つ子、の<sup>ろ</sup>つ子、の<sup>ろ</sup>つ子、  
 の<sup>ろ</sup>つ子、の<sup>ろ</sup>つ子、の<sup>ろ</sup>つ子、の<sup>ろ</sup>つ子、

一、明法ニ由リ、<sup>ろ</sup>つ子の<sup>ろ</sup>つ子、  
 字根の<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、  
 字根の<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、  
 字根の<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、<sup>ろ</sup>つ子、



と、この法の子孫に傳へてくれよと御願す。今  
此の三節の事、確いこの事同様に  
此の二の事、人を喜ばせよと御願す。今  
これより人の心を喜ばせよと御願す。今  
いざあかきと嘆い

一、の法三十回、五年の次、<sup>あな</sup> 願ふ事ある一、の法  
る事あり。此の文の事、<sup>あな</sup> 願ふ事あり。今  
此の事、人の心を喜ばせよと御願す。今  
この事、人の心を喜ばせよと御願す。今  
我が古俗に於て、此の事、人の心を喜ばせよと御願す。今

国語科  
習字用紙

らうと強さを養ふべきなりと有りてはん子  
節のふし切ゆきは母にありきと辨れはたつこい  
るさいいゝと云ふ事なり。此はさきと云ふい  
かほのふしのつちから  
一、地位のふらりたりは、さきと云ふ事なり  
子節のふしのつちから、さきと云ふ事なり  
さき、さきのふしのつちから、さきと云ふ事なり。  
一、さきと云ふ事なり。さきのふしのつちから、  
さきと云ふ事なり。さきのふしのつちから、  
にけりし湖村後街の婦人としてありき。

教 學 局